

## 13. 紙芝居劇を中心とした地域や世代をむすぶサロン

報告書 作成 2009年9月10日

「紙芝居劇むすび」代表：浅田浩 事務局：石橋友美

実施期間 2008年9月～2009年9月の1年間（平成20年度）

### <当初の問題意識>

紙芝居劇の制作・上演活動を行っている当団体の活動拠点である「あいりん地区」こと「釜ヶ崎」は、日雇い労働者や困難を抱えた单身男性が多く住む陸の孤島のような場所である。当グループにもリストラ・野宿など人生の苦難を乗り越えた単身高齢者が集まる。彼らの多くが他者とのコミュニケーションが不足する生活を送っており、生活をより豊かにする社会参加、文化活動を地域に提供できないかという問いから、このたび助成をいただくことになった。

当初の予定通り、当団体が実施を試みたのは以下の4項目である。

- アートワークショップの開催
- サロンの開催
- むすび新聞発行
- 紙芝居活動の継続

これらを通じて地元の他の高齢者（とくに生活保護を受けて働きに出る必要もなく、部屋に閉じこもりがちの人）に居場所を提供したり、釜ヶ崎地域と他の地域の交流により、地域外の人の偏見をなくし、より多様な人間関係を生み出すことをめざした。

### アートワークショップの開催

2008年1月25日

場所 釜ヶ崎エッグス（紙芝居劇むすび事務所）

講師 碩与志象さん（版画家）

参加者 15名

花をテーマにハガキ大の版画をつくるというワークショップ。

2009年3月1日 13:30～15:00 フラワーアレンジメントワークショップ

場所 釜ヶ崎エッグス（紙芝居劇むすび事務所）

講師 塩川千恵子さん（茶と花の教室「花はな茶ろん」主宰）

参加者 13名

内容 「心に花一輪」をテーマに、春の花数種類を、紙製パックの容器に生ける。その後、

茶話会でワークショップをふりかえったり、感想を述べ合い、交流を深めた。

2008年6月11日 13:30~15:30

場所 西成市民館 3F 講堂

講師 ひきたま さん(シンガーソングライター)

参加者 12名

「むすび」の紙芝居をアレンジ。ひきたまさんがアフリカの楽器やさまざまな楽器を使って伴奏したり、自分たちで決めた歌を歌うなど。

#### 成果

赤ちゃんから学生、若者、働き盛りの中年層、90歳のおじいさんまで、いろいろな年代層が集まり、ワークショップという非日常に触れ、どの回も予想以上に楽しい雰囲気となった。講師が次回の企画をお約束してくださったり、新たな交流も生まれた。終わった後もみんなが和やかに打ち解けて喜びを語っていたのが印象的だった。ひとりの高齢者は、新たな楽しみとして、野の花を採って来て自分で生けるようになった。

#### 課題

会場探しなどに苦労した。土日閉まっている市民館や、高齢者には遠い場所、事務所では10人強が精一杯だったので、今後も会場探しに力を入れたい。次につなげる余裕(次回のチラシを用意しておくなど)をもって実行していれば、よりつながりを強力でできたかもしれないと思う。企画に時間がかかり、回数が予定よりだいぶ少なかった。



#### サロンの開催

場所 釜ヶ崎エッグス(紙芝居劇むすび事務所)

時間 平日午前中 火曜と金曜は4時まで

誕生会 10/10、1/25、5/5、おでん会 11/21、クリスマス会 12/23、  
年越しそば 12/29、夕涼み会 7/30

#### 内容

コーヒー(東京のホームレス支援団体「もやい」から購入。交流の一環に。)やお茶を用意して、活動の場である事務所に誰でも受け入れ、街のサロンとして機能するよう努めた。まずは顔見知りの人を誘うことから始め、世間話をしたり、自分たちの活動の話をしたりして、特に独り暮らしの生活保護受給者など、日ごろ会話の相手に不足している人を部屋

から出し、人とコミュニケーションをとることを促す。また誕生会、季節の行事などを行い、みんなで時間を共有することに努めた。

#### 成果

生活保護受給者である高齢者だけでなく、近隣で働く人、大学生さまざまな立場の人が気軽に立ち寄り、また友だちを連れてくるなどのゆるやかな広がりがみられた。また、求職中のシングルマザー、野宿生活者など生活に困難を抱える人も、ここにホッとできる場を見出した人もいる。

#### 課題

ドアを開けて誰でもどうぞという状態にすると、地域柄、酔っぱらった人などが冷やかしに來たりして、受け入れる高齢者の負担となるので、まずは顔見知り、紹介などでつながった人を受け入れるようにした。もう少しあちこちにチラシを置く、営業に赴くなど宣伝に努めればよかったと思う。受け入れ側でも、心に問題のある人、人間関係のもつれなどに対処できるノウハウを持つ人や、相手をする余裕のある人的充実があればと思った。



#### むすび新聞発行

2008年10月、12月、2009年2月、4月、6月、8月 計6回発行

発行部数 500部/回

配布場所 個人支援者(約140名)、地域の公的施設(市民館・NPOなど)  
他の地域の公的施設(人権博物館、NPOセンターなど)

#### 内容

代表による季節のあいさつ、メンバーによる挿絵、おじいさんたちへの質問コーナー、ニュースや近くある公演の案内、むすびの公演予定などを掲載。

#### 成果

出会った人に新聞を送るようにして行ったら、それを見て別の公演に来てくださったり、知り合いの方に見せてくださったり、発行を楽しみにしているという遠方の支援者ともつながりをもてるようになった。

## 紙芝居活動

これまで交通費の捻出できない団体とも積極的に関わり、紙芝居だけではなく他地域で自分たちを紹介する展示もした。紙芝居公演はこの助成を受けている1年間で35回と、例年の平均24回を大きく上回った。2008年11月には「トモちゃんとカッポレくん」、2009年7月には「ネコちゃんの人生すごろく」と新作を2本も制作した。

## 収支報告

### 収入の部

大同生命助成金	200000
むすび自己資金	30952
	<hr/>
	230952

### 支出の部

#### サロン活動

コーヒー代	22812
誕生会・季節の催し	34648

#### アートワークショップ

講師謝礼	18000
ワークショップ材料	20681

#### むすび新聞発行

印刷代 計6回×500部	29265
郵送代	66450

#### 紙芝居活動

交通費	17790
製作費(コピー 材料 画材など)	15719
雑費(写真プリント)	5587
	<hr/>
	230952